

石見銀山の本格的な開発が始まった16世紀の半ば頃は、西洋では「大航海時代」と言われていた時代でした。西洋人の航海の目的地のひとつとなったのが中国です。当時は明という国で、世界最大級の経済規模を誇っていました。西洋人が熱望したのは、明以外ではほとんど手に入らない高級品の、絹、陶磁器、茶です。

しかしながら西洋人が悩んだのは、明が海外貿易に消極的だったことです。明は物が豊かなため、西洋の産物に興味をひくものがなかったのです。

そこで困った西洋人が目を付けたのが日本の銀でした。明では、経済の発達に伴い、貨幣や納税に利用できる銀が大量に求められていました。そして多くの西洋人が日本貿易に従事するようになります。

たとえば、日本へキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルのような宣教師です。彼らは布教費用を得るため、貿易活動を行い、情報収集することが多々ありました。ザビエルは日本が「『銀の島』と呼ばれている」、という趣旨の手紙を残しています。他の宣教師も「中国にあるポルトガル人の港は、日本からの積荷（銀）で繁栄している」と報告するなど、日本は銀貿易によって広く西洋人に知られていたのです。

こうして、日本人は銀を西洋人の持ち込んだ中



銀鉱山(Argenti fodinae)という文字が石見だけにあり、石見銀山は西洋でもよく知られていたようです(テイセウ日本図・島根県立古代出雲歴史博物館蔵)

国の産物などと交換し、西洋人は中国で銀を絹などに交換する貿易体制が出来上がります。大航海時代における日本の銀は、西洋と東洋を結ぶ不可欠な貿易品のひとつだったのです。

【問】 石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183
ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

ちゃんぽし語録⑱

(A) 夫 (B) 妻

- A : やれ！今日も暑いー。
B : そがにいらくって…いじしや余計暑うなるでな。
A : こがに暑けりゃ、こらえられんでえ。
B : 海にでも浸かってきたらどがなかな？
A : そらええなあ、そがしょう。
B : そいでボベでも採って帰ってごしない。
A : 涼みに行こかちゅうだに、仕事させるだかな!?
B : わしや暑うてやどから出られんけえ、店に行かれへんに。
A : ちっとも涼みにならんでえー。
B : 晩げが茶漬けでよけりゃ、やどでなごうになつてええでな。
A : やれのー、ほいじゃあちよっこし行って戻るわ。
B : 岩場でまくれんよう、きーつけんさいよ！

(解説)

46kmもの長い海岸線をもつ“おおだ”には、たくさんの海水浴場や釣りスポットがあります。海水浴も夕方ごろから出掛けてついでにボベを採ったり、子どものアセモを治すために塩水に浸かりに行くなど、生活の一部として気軽に楽しんでいます。ボベは岩場に付くカサガイ類の地方名で、炊き込みご飯にするととてもおいしいですよ。